

- がん登録データをもとに、患者の発生動向の分析、さらには、治療方法と成績の比較検討を行うことにより、がん医療の均てん化を目指します。
- これらのデータの公表についても取り組むことにより、がん診療連携拠点病院を中心としたがん診療機関の質の向上を目指すとともに、患者・県民への情報提供を促進します。
- 質の高い院内がん登録の整備に向け、千葉県がんセンターにおいて、院内がん登録に関する研修会や共同研究を実施します。
 - ・ 県がんセンターが行っている地域がん登録の実施
 - 13 拠点病院
 - ・ 県内統一がん登録への参加
 - (昨年度) 3 拠点病院 / 13 拠点病院
 - (現状) 6 拠点病院 / 13 拠点病院
 - (目標) 13 拠点病院 / 13 拠点病院

(6) 標準的ながん治療を安定的に提供するための臨床研究の実施

- 現在、千葉県がんセンター及び地域がん診療連携拠点病院が共同し、「電気メスのリガシユアに関する研究」等の臨床研究を実施しているところです。本県の全てのがん診療連携拠点病院が参加し、これらの臨床研究を進めることにより、科学的に説得力のあるデータを得ることが期待できます。また、これら標準的ながん治療を安定的に提供することを目指す臨床研究は、わが国のがん医療の均てん化に貢献するものと考えます。

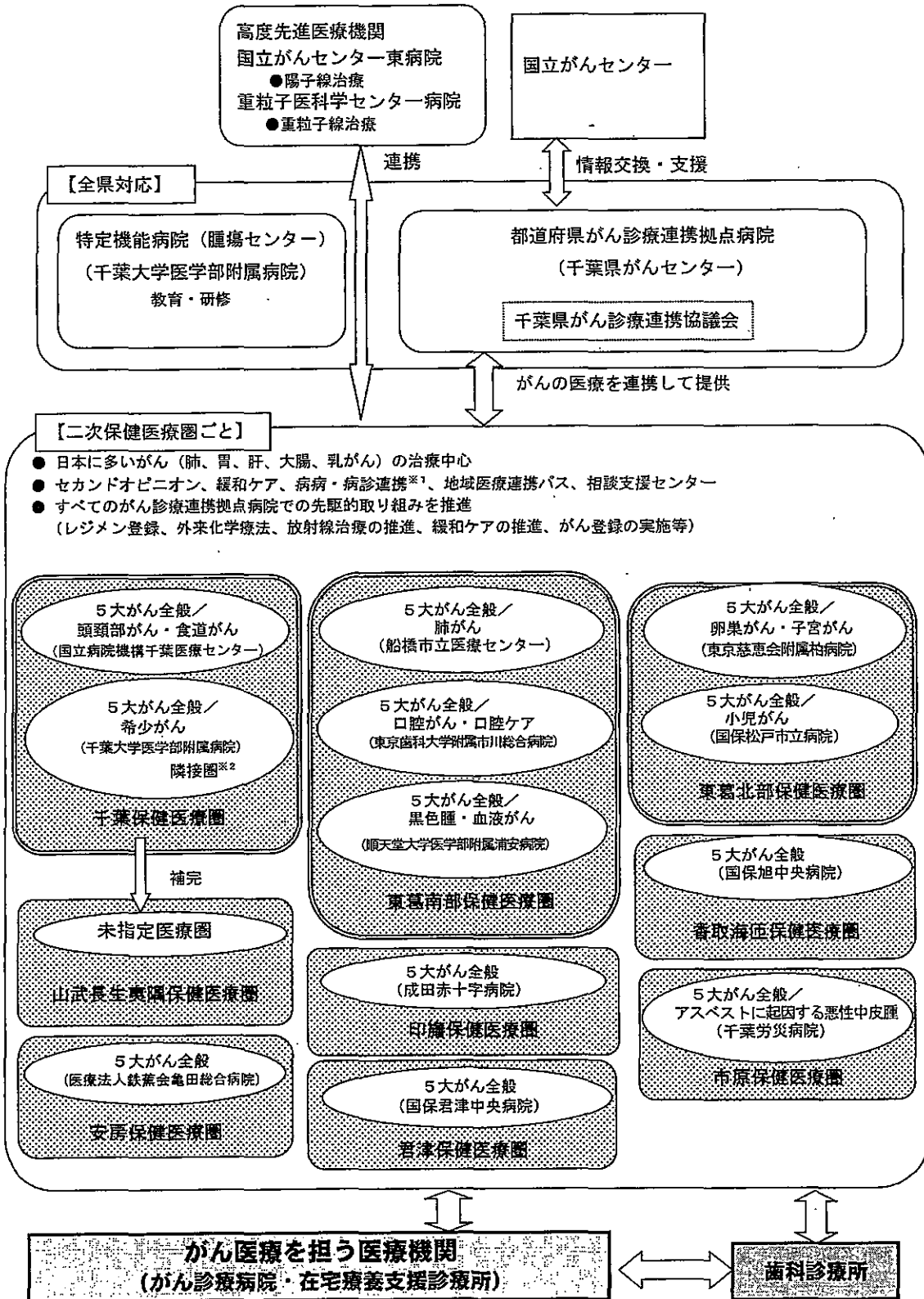
(7) 定量的な指標の検討

県民が安心してがん医療を受けられるため、その医療にかかる客観性のある質的評価を定量的に行う指標について、千葉県がん診療連携協議会において検討し、がん診療連携拠点病院のデータを公表していきます。

5 県としての支援

「千葉県のがん診療体制」の構築を、予算的措置、人的な投入により支援していきます。

千葉県のがん診療連携体制フロー



(参考)

人口の多い医療圏（複数設置）の医療機関の特徴

1 千葉医療圏

○ 千葉大学医学部附属病院(千葉市)

千葉大学医学部附属病院は、がん患者・家族に対する貢献にとどまらず、臨床試験を含む基礎・臨床研究によって創出されるエビデンスに基づいた治療法を地域医療機関に提供し、多くのがん臨床専門家を輩出し、また地域医療機関の専門家に対しても千葉大学の教育・研修プログラムを提供しています。

がん医療の特徴としては、がん診療の各分野で多くの専門家が揃っており、希少がん種や高度な治療技術を必要とする患者にも十分な対応ができる医療機関です。

○ 独立行政法人国立病院機構千葉医療センター（千葉市）

独立行政法人国立病院機構千葉医療センターは、全ての診療科に各学会が認定する専門医、指導医を揃えており、質の高い総合診療機能に支えられたこれらの政策医療専門施設としてその機能強化を図るとともに、地域に密着した救急医療、急性期疾患の診断・治療の役割を担っています。

がん医療の特徴としては、頭頸部腫瘍の扁平上皮がんに対する超選択動注併用照射療法は優れており、また、消化器外科と耳鼻科との境界領域のがん、下大静脈腫瘍栓を有する腎がん症例など複数の診療科にまたがる症例など、頭頸部がん、消化器系のがん（特に食道がん）、泌尿器系がんを得意分野としている医療機関です。

2 東葛南部医療圏

○ 船橋市立医療センター(船橋市)

船橋市立医療センターは、救命救急センターを併設し、高度専門医療、救急医療、開放型病床を3本柱として、地域の中核医療機関としての役割を担っています。各科共に専門医、指導医がおり、平成19年1月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。

がん医療の特徴としては、肺がんの外科的治療や化学療法を得意分野とし、特に充実した呼吸器外科医を擁していること等により、すぐれた治療成績を収めています。

また、平成7年以降、がん治療に温熱療法（ハイパーサーミア）を取り入れ、放射線療法との併用を中心に、延べ3,300件を超える実績を上げている医療機関です。

○ 東京歯科大学市川総合病院(市川市)

東京歯科大学市川総合病院は医科各科との連携をスムーズに取ることが可能な環境にあり、平成18年4月1日に口腔がんを専門的に担当する「東京歯科大学口腔がんセンター」を設置するとともに、総合病院として、地域の中核医療機関としての役割を担っています。

がん医療の特徴としては、口腔がんの手術療法、放射線療法、化学療法開始前より、歯周病管理をはじめ、各々の治療に合わせその後の口腔を予測した口腔ケア、口腔衛生指導を行うとともに、術後の嚥下機能の訓練のみならず、術前より簡単な嚥下の練習を行い、術後に備えるように指導をしています。特に、顎骨を失い咀嚼ができなくなる患者については、顎骨再建の後デンタルインプラント等を利用した形態再建、咀嚼機能の回復までを実施している医療機関です。

○ 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院(浦安市)

順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院は、日本がん治療認定医機構認定の暫定教育医が17名在籍している他、総勢250名の医師(内、専門医・認定医のライセンス所持者が延116名)を擁し、がんの初期診断から終末期医療までの治療が可能な体制を整えており、地域の中核医療機関としての役割を担っています。

がん医療の特徴としては、独立行政法人放射線医学総合研究所と共同での炭素イオン線による脈絡膜悪性黒色腫に対する治療や専門医による血液がんの治療を行うとともに、順天堂大学大学院が文部科学省の平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」に全国18大学の1つとして選定され、がん治療に多大の実績を持つ国立がんセンター(中央病院・東病院)をはじめ、関係医療機関と連携・協力し、がん医療を担う医療従事者の養成を行っている医療機関です。

3 東葛北部医療圏

○ 東京慈恵会医科大学附属柏病院(柏市)

東京慈恵会医科大学附属柏病院は東葛北部(二次医療圏)において三次救急から高度がん医療を行うなど、地域の中核医療機関としての役割を担っています。

がん医療の特徴としては、婦人科系がん治療では、治療総数と生存率とも県内随一であり、また、国立がんセンター東病院の婦人科は慈恵医大柏病院の医師が兼務しています。

また、婦人科系がんの5年生存率は卵巣がんⅠ期98.9%、Ⅱ期88.2%、Ⅲ期59.6%、Ⅳ期46.7%、子宮体がんⅠ期96.5%、Ⅱ期94.7%、Ⅲ期67.5%、Ⅳ期37.5%、子宮頸がん0期100%、Ⅰ期94.4%、Ⅱ期54.5%、Ⅲ期37.5%であり、全国平均の5年生存率を超える成果を上げている医療機関です。

○ 国保松戸市立病院(松戸市)

国保松戸市立病院は、救命救急センター、小児医療センター、災害拠点病院等、地域の中核医療機関としての役割を担うとともに、臨床研修指定病院、地域医療研修センターをはじめとして、日本臨床腫瘍学会や日本がん治療認定医機構の認定研修施設として、各種学会の研修医療機関としての役割も担っています。

がん医療の特徴としては、小児医療センターに多数（小児科：9人、小児外科：2人、新生児科：6人）の常勤医師を配し、小児がん（白血病、悪性リンパ腫）の治療では、全国レベルの治療グループに参加する医師を有し、県内の有数の治療機関として、確実な治療実績があります。

また、院内には、小・中学生の学習の場として、院内学校「ひらやま学級」を設置し、療養と学業を共にできる環境を整備している医療機関です。

富山県

「富山型がん診療体制」の進捗状況

富山県

富山県では、国の指針に基づく機能に加え、昨年度から、がん診療連携拠点病院が連携し、富山型がん診療体制として以下のような取組みを進めてきております。

本年10月末までの取組みの進捗状況を報告します。

1. すべてのがん診療連携拠点病院で敷地内禁煙を実現

- すべてのがん診療連携拠点病院で敷地内禁煙を実施
- 地域住民等に対する講習会・研修会の開催

<取組状況>

- 平成19年4月に、全てのがん診療連携拠点病院が敷地内禁煙となり、現在も継続しています。
- 禁煙外来（7施設／8施設）を開設し、禁煙支援に努力しています。
- 地域住民を始め、看護師等の医療従事者への講習会・研修会は、すべての拠点病院で実施（26回）しています。また、禁煙週間に院内でパネルの展示や街頭で禁煙啓発のリーフレットやティッシュの配布を行うなど、地域の禁煙対策にも努力しています。

<今後の対応方針>

- すべての拠点病院での禁煙外来の開設を進め、禁煙支援体制を充実していきます。
- 県の禁煙オリジナルマークを普及します。
- 今後とも、地域の担当者への講習・研修会や市民公開講座等への支援を通じて、たばこ対策の推進を図っていきます。



（富山県オリジナル禁煙マーク）

2. すべてのがん診療連携拠点病院で5年生存率を公表

- 胃・大腸・乳がんについて、すべてのがん診療連携拠点病院で5年生存率を公開（公表部位は随時拡大）
- 専門分野と専門医の人数、治療内容等、がん治療に関する全面的な情報開示
- 公表データについて、県がん診療連携協議会の場で検証

<取組状況>

- H19年10月に、同じ様式でホームページ上に、胃、大腸（結腸・直腸）、乳がんの5年生存率を公表しました。
- 院内がん登録の精度管理の一環として、登録率の更なる向上のため、富山県がん診療連

携協議会の「がん登録部会」において、ケースファインディングの方法について協議し、統一を図りました。

○地域がん登録と連動した予後調査を継続実施しています。

<今後の対応方針>

○各がん診療連携拠点病院で開始した標準様式によるがん登録のデータを活用して、がんの罹患状況や治療状況の分析を行っていきます。

○地域がん登録の充実に努めます。

3. がん患者会の強化、患者・家族の療養・相談支援体制を整備

○院内のがん患者会（乳がん）の充実・強化

○がん診療連携拠点病院の専門医による種類別医学講座の開催

<取組状況>

○昨年に引き続き、県内5つの乳がん患者会（昨年度、2か所が設立）の交流会「第2回富山県乳がん患者を支える会」を乳がん月間である10月に実施しました。

○乳がん検診の普及啓発として実施した「とやまピンクリボンキャンペーン」において、乳がん患者会が自主的に街頭キャンペーン等へ協力されるなど、活動に広がりが出てきました。

○昨年に引き続き、機能分担した病院と県がん拠点病院の医師等が連携し、「肝炎・肝がん」、「化学療法・緩和ケア」、「最新のがん医療」について、医学講座番組「～がん専門医に聞く～富山県のがん診療のいま」を作成し、9～10月を中心に、ケーブルテレビで放映しました。（19年度：胃がん、肺がん、乳がんの3部位について放映）

<今後の対応方針>

○乳がん患者の交流会を継続実施するとともに、乳がん患者会と一緒にがん検診普及啓発を行っていきます。

○各がん拠点病院において、ケーブルテレビ等を積極的に活用し、地域住民に対し、がん診療等の情報を伝えていきます。

4. 緩和ケア外来や外来化学療法の実施

○緩和ケア外来の開設

○外来化学療法の充実

<取組状況>

○H19年4月に、すべてのがん診療拠点病院で緩和ケア外来が開設されました。

○外来化学療法はすべてのがん診療連携拠点病院で実施しており、専用の療法室が設置されました。（7施設／8施設）

○平成20年4月に、県がん拠点病院である県立中央病院が外来化学療法センターを新たに開設し、アメニティの向上とともに外来化学療法の実施体制を充実強化しました。

○今年度より、県立中央病院において、放射線機器「リニアック」を最新鋭に更新し、放射線治療とともに痛みのコントロール等緩和ケアの質の向上にも努めています。また、緩和ケア病棟の病床数が18床から25床に増床されるなど、充実が図られています。

<今後の対応方針>

○他の地域がん診療連携拠点病院においても、緩和ケア病床の設置等に向け、体制の充実や、一般病棟における緩和ケアチームの強化を図っていきます。

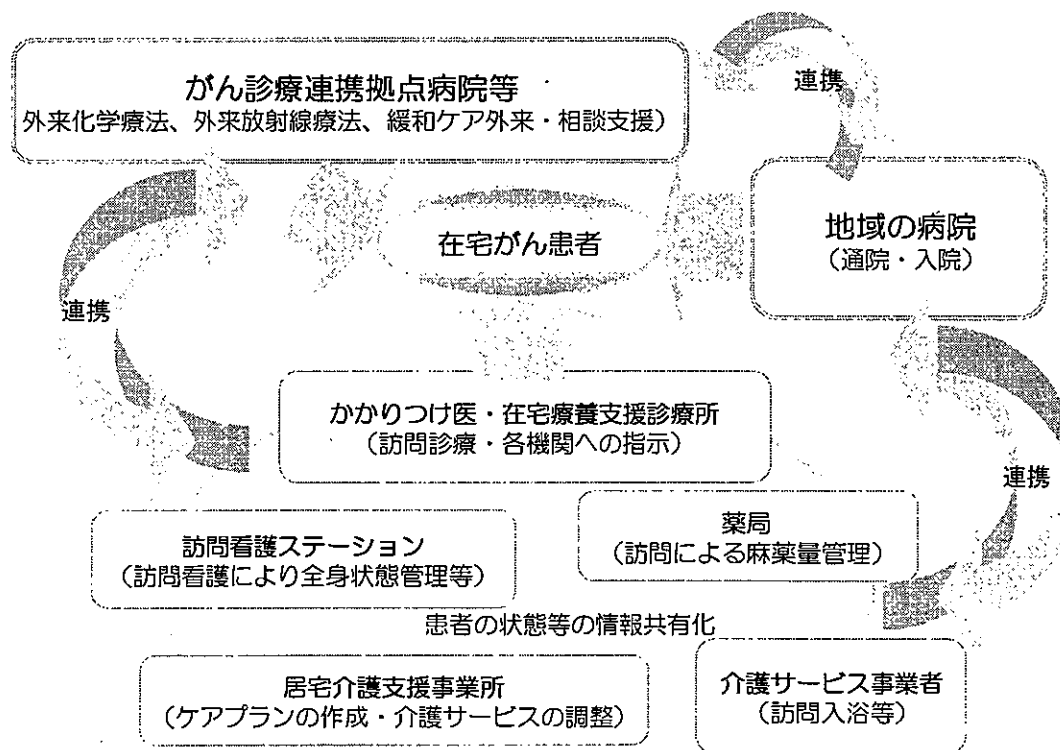
5. 医療圏毎に病診連携を強化し、がん患者の在宅療養を支援する体制の確立

○郡市医師会、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター等と連携し、在宅療養を支援する体制の確立

○24時間在宅緩和ケアの実施に向け、がん診療連携拠点病院を核として、緩和ケア外来がバックアップしながら医師会、訪問看護等とのネットワークの構築

<取組状況>

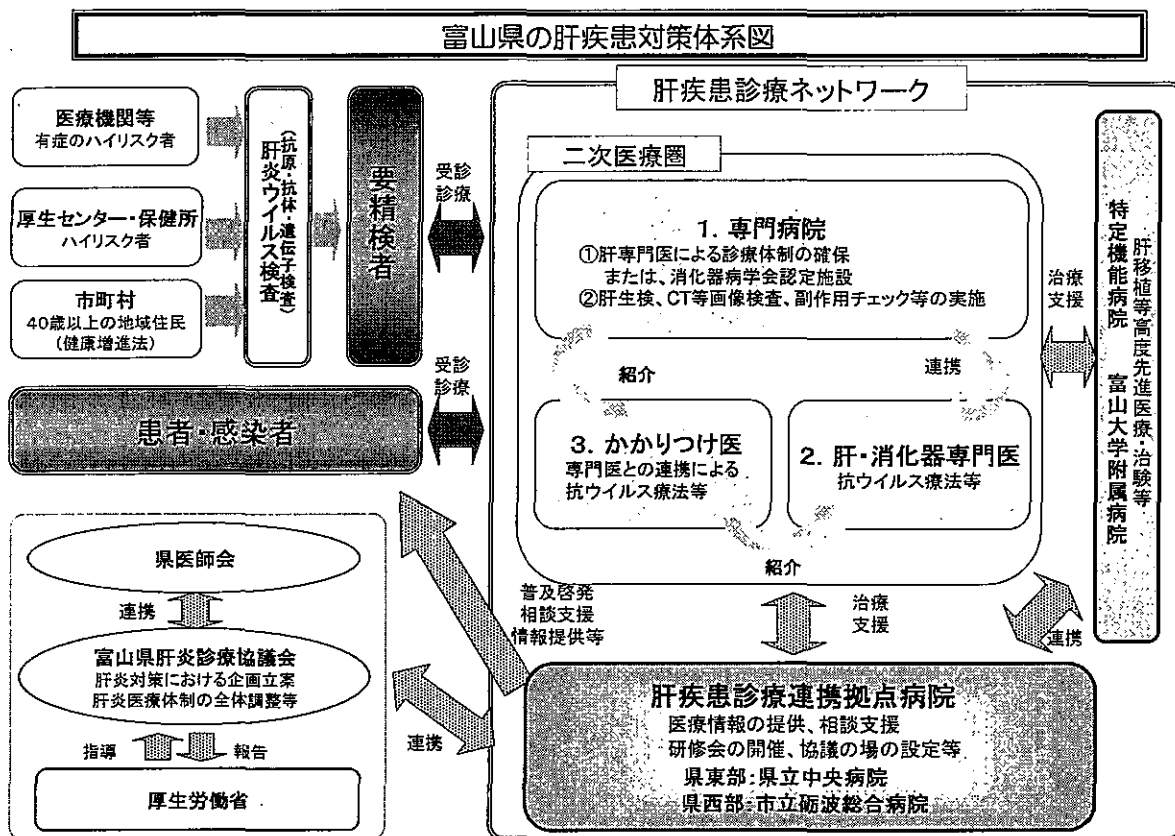
○3月に策定した「富山県がん対策推進計画」において、患者支援体制の構築を重点施策の一つとし、医療圏毎に、県の医療計画との整合性を図りながら、医師会、地域の医療機関、訪問看護ステーション、薬局等と連携した在宅療養体制（下記イメージ図）の構築を図ることとしました。



○体制の構築に向け、がん診療連携協議会の「相談支援部会」と厚生センター（保健所）との連携し、地域の関係機関との調整を行っています。

○昨年度、県内の肝疾患の診療体制を構築し（下記の図）、今年5月には、専門病院、肝専門医等の名簿を県のホームページで公表（別紙）し、肝疾患患者のフォロー体制を明確にしました。

また、現在見直しを行なっている保健・医療関係者のマニュアルにおいて、肝がんのクリティカルパス例を掲載することとしています。



<今後の対応方針>

- 引き続き、医療圏毎に在宅療養体制の構築に向け、関係機関と連携し協議をしていくこととしています。
- また、がん診療連携拠点病院が中心となって、緩和ケア外来がバックアップしながら医師会、訪問看護等とのネットワークの構築を進めていきます。

6. 院内がん登録の精度の向上

○質の高い院内がん登録の整備

<取組状況>

○H19年1月より、すべてのがん診療連携拠点病院で標準様式による登録を開始しました。

○また、H19年1月より、院内がん登録の電子データによる届出情報で地域がん登録を可能としたことにより、地域がん登録の精度の向上にもつながっています。

○院内がん登録の精度の向上を図るため、定期的ながん診療連携協議会の「がん登録部会」を開催し、登録状況を点検・確認しています。

また、登録漏れを防ぐため、各病院のデータ収集に関する手法を検討し、ケースファインディングの方法の統一を図りました。

○県の診療情報管理研究会（H19.4 設立）に対し、資質の向上を図るため、県から会に研修費を補助して研修を実施しています。

<今後の対応方針>

○引き続き、がん登録部会が中心となり、国立がんセンターがん対策情報センターのご指導のもと院内がん登録の精度の向上を図っていきます。

7. 共同利用型PETセンターと連携したがん診断・治療体制の構築

○PETセンターとがん診療連携拠点病院が連携して、診断・治療を行う体制を構築

○PETセンターとがん診療連携拠点病院は、画像情報をオンラインで結び、がんの診断・治療の質を向上

<取組状況>

○行政と民間が協力して、共同利用方式のPETセンターが、H19年11月にオープンしました。今後、このPETセンターとがん診療連携拠点病院が連携して、診断・治療を行う体制の構築を図っています。

<今後の対応方針>

○最新式のサイクロトロンとPET/CTを整備し、がん診療連携拠点病院との連携のもと、がん患者の治療に利用するとともに、企業等のがん検診においても積極的に活用を図っていきます。

○PETセンターとがん診療連携拠点病院は、将来的に画像情報をオンラインで結び、がんの診断・治療の質を向上させることとしています。

8. がん検診の受診率の向上対策の強化

- 受診しやすい体制づくりの一層の推進
- がん検診の普及啓発、費用軽減措置など独自の取り組みの強化
- 精度の高い検診体制の整備

<取組状況>

○今年度、女性のがん検診普及啓発として、乳がん月間である10月に「とやまピンクリボンキャンペーン」と実施し、がん検診の受診率向上に向け取組みました。

キャンペーンの推進のオリジナルマークを作成し、啓発用のぼり、スタッフジャンパー等の啓発用資材やピンバッジに活用しました。

(1) 街頭キャンペーン

- ア 日 時 10月5日(日) 11:00~15:00
イ 場 所 総曲輪グランドプラザ
ウ 内 容
- ・乳がん患者会および看護師等による街頭キャンペーン
 - ・マンモグラフィ検診車による無料お試し乳がん検診
 - ・医師、看護師による医療相談 等



(2) 公共施設のピンクライトアップ

- ア 富山城……………天守閣のピンクライトアップ
イ 富岩運河環水公園……………天門橋の展望塔へのピンクリボンマーク飾りつけ
泉と滝の広場のピンクライトアップ
ウ 県庁前公園……………噴水のピンクライトアップ

(3) 乳がん患者を支える会の開催(再掲)

- ア 日 時 10月19日(日) 12:30~16:00
イ 場 所 県民会館304号室
ウ 内 容 テーマ「家族と共に生きる」
特別講演会、シンポジウム、医療相談会等

(4) その他

- ・がん検診普及ポスターの作成、掲示(9月~10月)
- ・ピンクリボンのピンバッジの作成、配付 等

○早朝、夜間、土日の検診の実施や他の検診と組み合わせた複合検診など、受診しやすい体制を整備しています。

○節目年齢者のがん検診料金の助成やがん対策推進員などのボランティアによる受診勧奨活動への補助を実施しています。

〔 節目検診：胃がん(胃X-P、胃内視鏡)、乳がん、子宮がん、肺がん(ヘリカルCT) 検診を受診する節目年齢者(5歳ごと)へのがん検診の自己負担額を軽減している。 〕

○乳がん検診に積極的にマンモグラフィの導入を図っています。